

次期田原市総合計画 策定に向けた
まちづくり市民会議【第1回】

目次

1 総合計画とは	2
(1)総合計画について	2
(2)田原市総合計画について	2
(3)第2次田原市総合計画について	2
2 まちづくり市民会議について	4
(1)まちづくり市民会議について	4
(2)市民会議のグループ分け・検討領域について	5
(3)全4回のプログラム	5
(4)オンラインによる市民会議への意見出し	6
3 本日の流れとタイムスケジュール	7
【参考資料】 田原市の「今」の姿 ～「田原市の現況 令和4年度版」より～	8

令和5年1月 24 日

田原市 企画課
業務委託:(株)ジャパンインターナショナル総合研究所

1 総合計画とは

(1)総合計画について

昭和 44 年の地方自治法改正以来、市町村は総合的かつ計画的な行政の運営を図るための方向性を示すものとして基本構想を策定することが義務づけられました。

義務づけは基本構想だけでしたが、基本構想の下に基本計画、実施計画が策定され、全体を称して一般的に「総合計画」と呼ばれています。

平成 23 年8月に改正地方自治法が施行され、総合計画(基本構想)の策定は「義務」から「任意」となりました。これにより、総合計画は市町村が独自で策定するものとなりました。

(2)田原市総合計画について

田原市では、平成 19 年度を初年度とする 10 年計画として「第1次田原市総合計画」を策定しました。

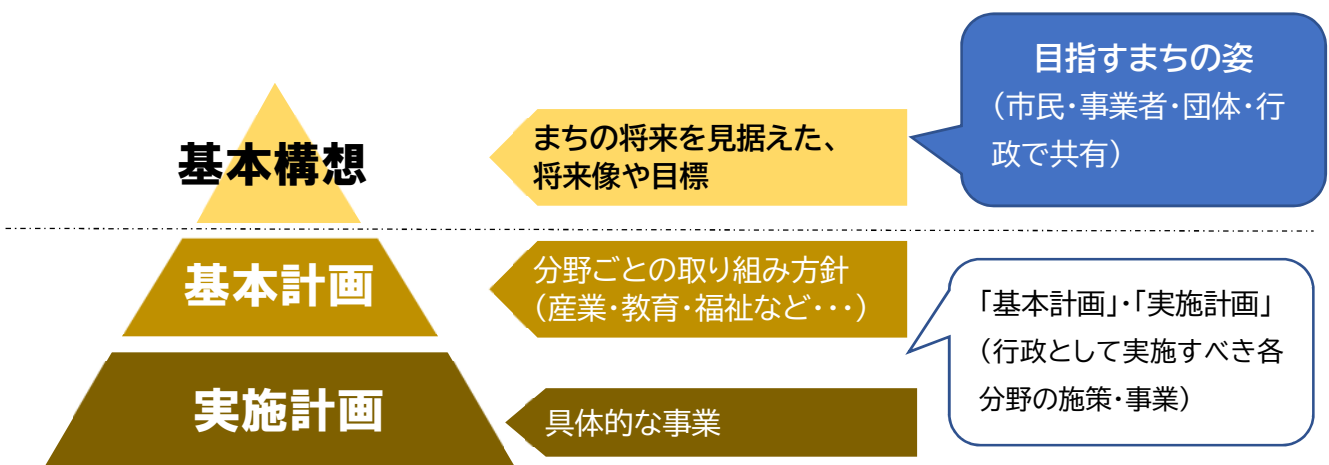
その後、時代に応じた計画とするため平成 25 年3月に内容を見直した「改定版第1次田原市総合計画」を推進してきました。

改定計画の期間は令和4年度まででしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大等、大きな社会情勢の変化を受け計画期間を令和5年度まで延長しました。

(3)第2次田原市総合計画について

第2次となる総合計画は、令和4年度から5年度に策定し、令和6年度からの 10 年計画となります。

総合計画は、長期的に目指す姿・目標等を示す「基本構想」と、目標のために分野ごとにどのような取組を行っていくのか方向性を示す「基本計画」、そして具体的に実施していく事業を示す「実施計画」の3層構造で策定します。



①市民参画について

新しい計画づくりにあたっては、田原市に関わりのある市民の皆さんの意見を反映させることが必要不可欠となっています。そのため、まちづくり市民会議を含めて、以下のような市民意見を反映する取組を行っています。

市民意見反映の取組	内容
①田原市総合計画審議会	<p>公的委員会・団体代表や学識経験者で組織し、市長の諮問に応じて総合計画に関する必要な調査や審議を行います。令和5年12月頃を目途に、答申を行う予定です。</p> <p>【令和4年度:2回、令和5年度:4回開催(予定)】</p>
②まちづくり市民会議	<p>全4回で実施。市民が考える田原市の今と未来について、課題や期待を取りまとめます。【令和5年1月～4月】</p>
③意見収集ボードの設置	<p>市内5か所に設置し、市民の皆さんが自由に市への意見を出せるようにしています。「総合計画」を広く知らせること、市民が気軽に意見を出せる機会をつくることを目的にしています。【令和5年1月】</p>
④若者への WEB アンケート	<p>市内の高等学校等にポスターを掲示し、スマートフォンやタブレット端末から WEB で回答できる形式をとっています。若い世代が感じている田原市の良い点、課題、市への想いや提案を収集することを目的にしています。【令和5年1月】</p>
⑤インスタフォトキャンペーン	<p>「田原市の未来に残したい風景」「田原市の宝」をキーワードにした、SNS を通じたキャンペーンです。若年層にも利用が多いツールを活用することで、総合計画への幅広い市民の参加を促すものとしていきます。収集した写真は計画書等にも掲載していくことを想定しています。【令和5年2月～9月】</p>
⑥地域コミュニティ連合会ヒアリング	<p>各地域のコミュニティ連合会の方にヒアリングを行い、地域固有の課題や特長、意見、提案を収集することを目的としています。【令和5年度(予定)】</p>

②第2次計画で考慮すべきキーワード

近年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延や経済情勢の悪化、情報通信技術(ICT)の飛躍的な発達、カーボンニュートラルに向けた取り組みの加速化など、社会情勢や私たちの暮らしのあり方が大きく変化しました。

今、大きな時代の変革の中にあって、新たな価値観や技術を積極的に取り入れながらまちづくりを進めていくことが重要になっています。現時点で、計画策定にあたって考慮すべきキーワードとして、次のようなものが考えられます。

■考慮すべきキーワード

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ●人口減少と少子高齢化の進展 | ●ウィズコロナ(ポストコロナ) |
| ●DX(デジタル化)などテクノロジーの急速な発展 | ●物価高騰 |
| ●GX(カーボンニュートラル) | ●国土強靱化 |
| ●SDGs(持続可能な開発目標)達成を目指す動き | ●市民との共創・協働 |
| ●地球規模の気候変動に伴う災害の激甚化 | ●国際化 |
| ●ウェルビーイング(well-being) | |

2 まちづくり市民会議について

(1)まちづくり市民会議について

このたびの「まちづくり市民会議」は、新たな総合計画に、市民視点での田原市の現状や、計画期間中を見通した場合に起こりうる課題や変化・それに対する提案等を洗い出していくことを目的とします。

委員の皆さまには「これを残していきたい」「田原市にこうになってほしい」または「これからこのような事態が想定されるからこのような取組をしていこう」といった意見を多く出していきたいと考えます。

最終的には、全4回が終わった段階で、皆さまから出された「未来の田原市の姿」や「未来に向けたシナリオ」を文章やイラストで表現していくことを想定します。(今後の検討の流れや成果によって変更になる場合があります。)

■実施概要

区分	内容
回数	全4回(令和5年 1/24、2/27、3/29、4/26)
参加者数	29人(3グループ)
実施方式	基本的に対面によるグループワーク形式

(2)市民会議のグループ分け・検討領域について

「まちづくり市民会議」は、現在の総合計画の6分野を3グループに分けて設置します。それぞれの分野の検討範囲は次のとおりです。(ただし、分野外の意見を出していけないわけではありません。)

■分野別の検討領域

グループ名	検討領域
健康福祉 教育文化	健康づくり、医療、地域福祉、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉、社会保障／学校教育、生涯学習、スポーツ、青少年健全育成、芸術文化、文化財
都市整備 消防防災	交通基盤、公共交通、港湾・河川、市街地、地域・住環境、上下水道、自然環境、緑と景観／消防・救急体制、防災・減災対策
市民環境 産業経済	参加と協働、地域防犯・交通安全、環境共生、環境保全、衛生対策、資源循環／農業、水産業、工業、商業、観光、労働環境、消費生活

(3)全4回のプログラム

全体のプログラム(案)は以下のとおりです。(コロナウイルス感染症の流行状況により、密を避ける観点からグループワークが短時間となる場合、書面での意見収集となる場合もあります。)

■全体プログラム(案)

回	内容
第1回 (令和5年1月24日)	・趣旨等の説明 ・グループワーク「未来に残したい田原市の宝」 ・検討結果のグループ発表
第2回 (令和5年2月27日)	・近い将来に起こりうること、イメージの共有(国の方針や社会情勢から) ・グループワーク「田原市の未来で考えられること(期待と心配)」 ・検討結果のグループ発表
第3回 (令和5年3月29日)	・グループワーク「こんな未来にしたい！(目指したい未来の姿とそのため に今必要な取組)」 ・検討結果のグループ発表
第4回 (令和5年4月26日)	・グループごとの「未来シナリオ」の検討 ・検討結果のグループ発表

(4)オンラインによる市民会議への意見出し



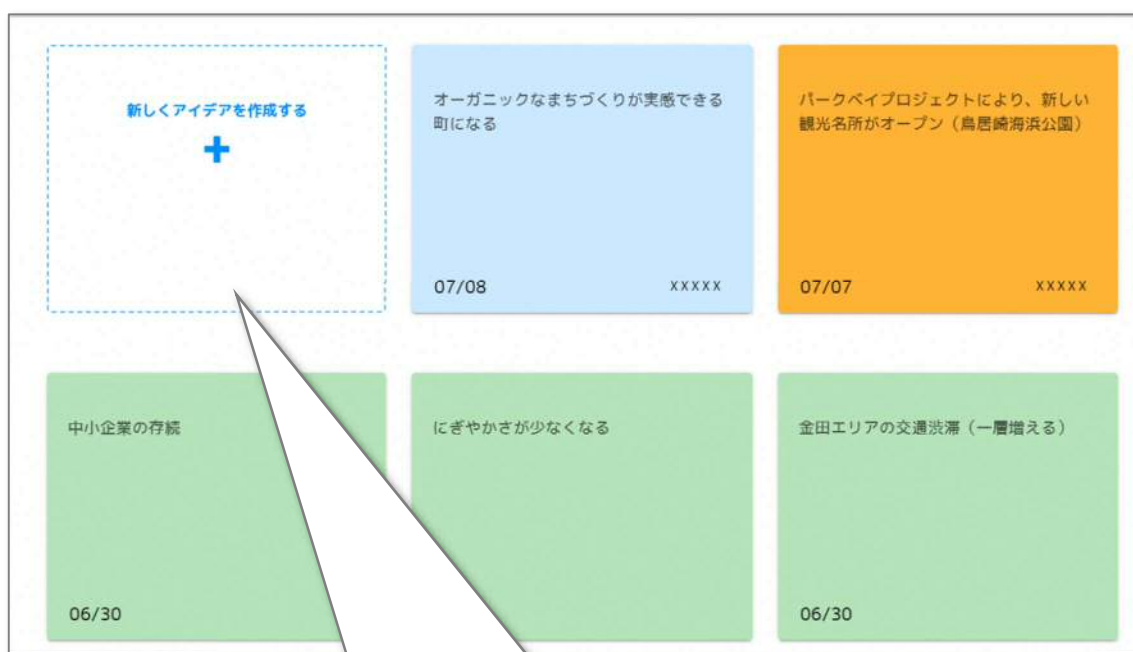
今回のまちづくり市民会議では、デジタルの力を活用した市民参画の試みとして、「リクリッド」という、株式会社 Liquitous(リキタス)が開発する参加型合意形成プラットフォームを導入しています。

「リクリッド」にワークショップで出された意見をアップロードすることで、同一テーマで会場に来ていない人からも意見を出してもらうことが可能です。

参加者の方でも、会議後に言い忘れたこと、もっと言いたかったこと等がありましたら、次回の会議までに「リクリッド」を通じて追加意見を出していただくこともできます。

周囲の市民会議に参加していない方にもぜひ、お伝えしていただければと思います。

■アイデア出しのイメージ(画面例)



ふせんで書き込むのと同じように意見を出すことが可能です！

3 本日の流れとタイムスケジュール

今回のまちづくり市民会議においては、委員の皆さまが感じている、各分野の「将来に残したい田原市の良さ」「田原市の宝だと思うもの・こと」について意見交換をしていただきたいと思います。


話し合うテーマ

未来に残したい田原市の宝

今回のグループワークの成果イメージ

- 未来を検討する前提としての田原市の良さ・魅力・宝をみんなで再認識する
- 他の参加者からの意見で、自分では気づいていなかった良さ・魅力・宝を知る
- 次回のグループワークに向けて、「時代が変化しても未来に残したいこと」を明らかにする

■本日の流れ

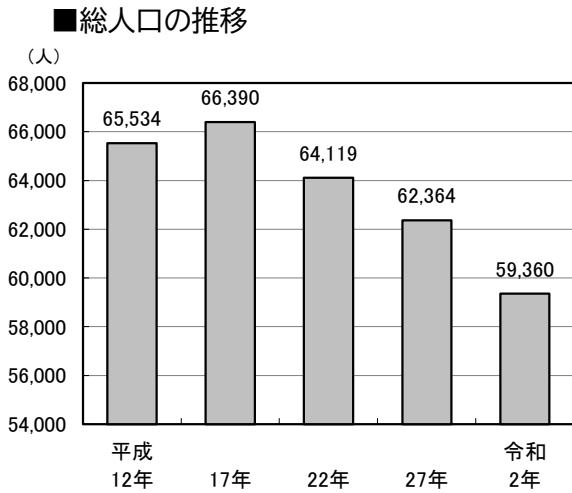
区分	内容	
ワークショップ(60分程度) 	5分	【グループワーク:アイスブレイク】 グループ全員で自己紹介と簡単なゲーム グループごとに役割決め(書記、最後の発表者)
	10分	【グループワーク:個人作業】 「未来に残したい田原市の宝」について、各個人でふせんに記入(1人×5~10枚) ※グループの検討領域以外のことでも意見を出していただいてもかまいません。
	30分	【グループワーク:意見交換】 グループ内で話し合いながら、ふせんを模造紙に貼り付けていきます。ファシリテーターと一緒に類似意見の突合をしつつ、ゆるやかにキーワード分類していきます。
	10分	【グループワーク:とりまとめ】 模造紙に貼り付けたふせんを、全員で共通する“キーワード”で取りまとめます。(書記の方中心に)
共有・発表(各グループ5分程度)	15分	【グループごとの発表】 グループごとに出た意見のまとめを代表者から発表していただきます。

※最後に市民会議のアンケートをお配りしますので、記入してお帰りください。

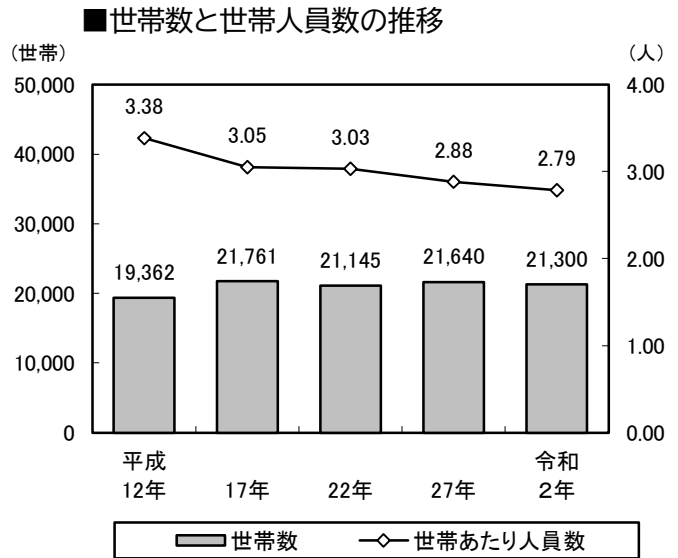
【参考資料】 田原市の「今」の姿 ～「田原市の現況 令和4年度版」より～

① 人口・世帯

○人口は平成 17 年をピークに減少傾向。世帯は微増～横ばいですが、平均世帯人員数は減少し、単身世帯の増加や核家族化の進行により世帯が小規模化しています。



資料:国勢調査

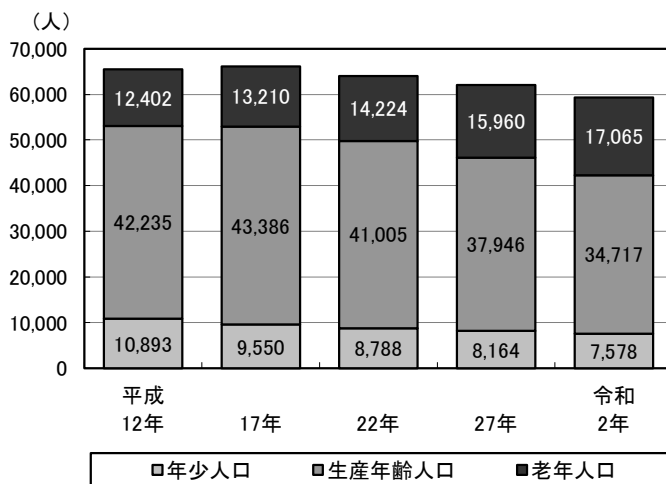


資料:国勢調査

○年齢3区分別人口をみると、15歳未満の年少人口は昭和 60 年以降継続して減少しており、順調に増加していた 15歳～64歳の生産年齢人口も平成 22 年で減少に転じています。65歳以上の老年人口(高齢者人口)は継続して増加しており、令和2年の高齢化率は 28.7%となっています。

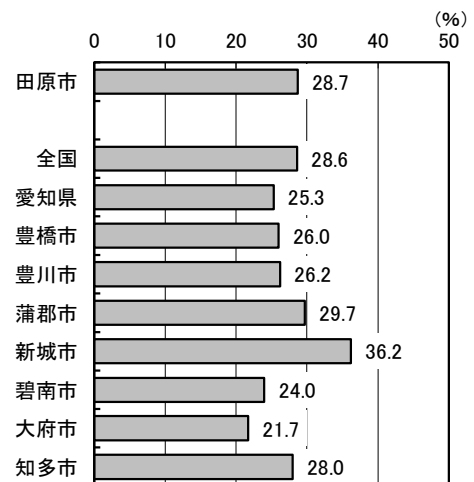
○高齢化率の都市間比較をみると、本市では全国、愛知県より高くなっています。

■年齢3区分別人口の推移



資料:国勢調査

■高齢化率の都市間比較

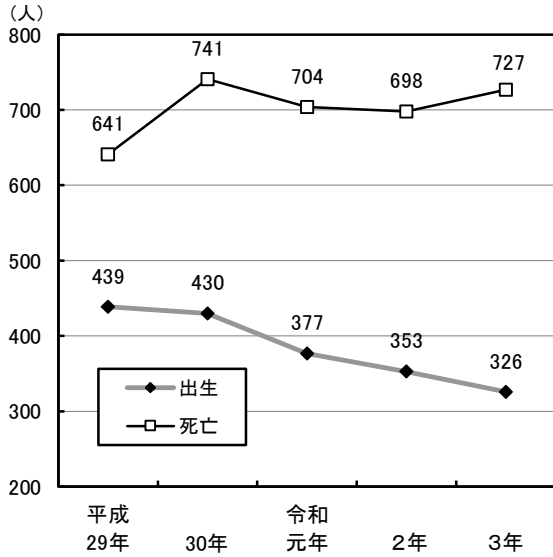


資料:国勢調査(令和2年)

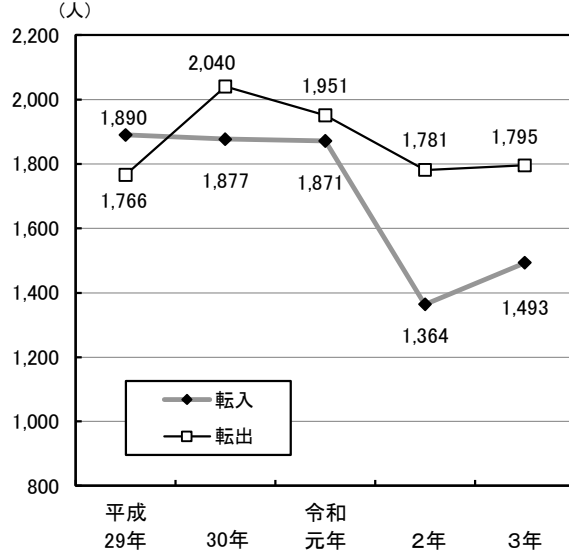
② 人口動態

○自然動態の推移をみると、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向が続いています。また、社会動態では、転出が転入を上回る社会減の傾向が続いています。

■自然動態(出生・死亡)の推移



■社会動態(転入・転出)の推移



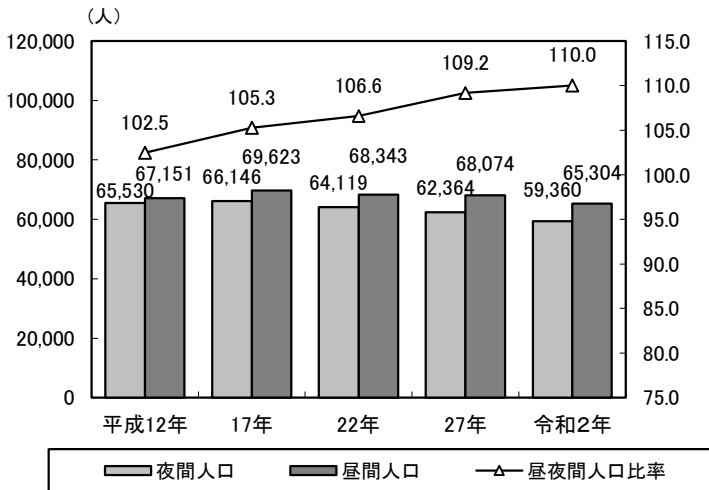
資料:市民課(住民基本台帳)

③ 昼夜間人口

○令和2年国勢調査の昼夜間人口をみると、夜間人口よりも昼間人口が多く、他市町から本市に就労している人が多いことがわかります。また、昼夜間人口比率は年々高くなっています。

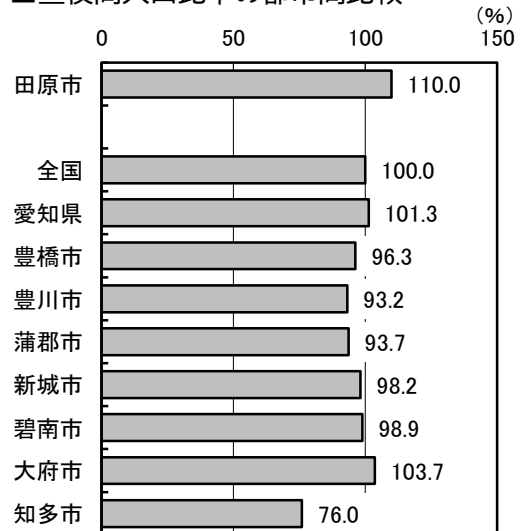
○都市間比較では、本市は全国、愛知県、近隣市、類似団体と比較して、昼夜間人口比率が高くなっています。

■昼夜間人口の推移



資料:国勢調査

■昼夜間人口比率の都市間比較



資料:国勢調査(令和2年)

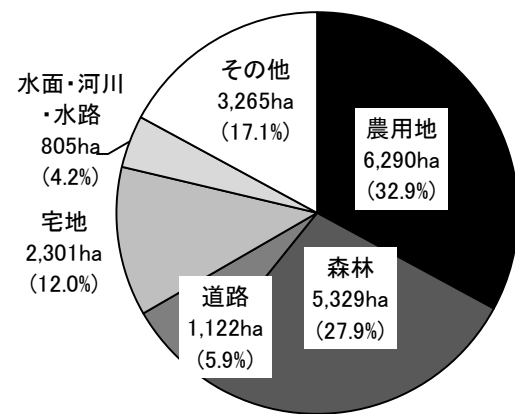
④ 土地利用

○田原市の総面積は 191.11 km²となっています。令和2年時点の地目別土地利用面積は、農用地が 32.9%と最も多く、次いで森林が 27.9%、宅地が 12.0%となっています。

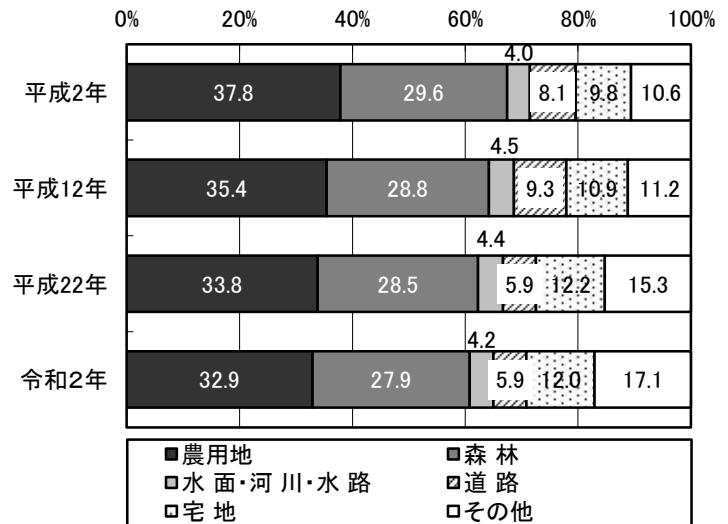
○土地利用面積の推移を経年でみると、農用地・森林は減少し、一方で、宅地(住宅地、工業用地)の占める割合が増加しています。

■地目別土地利用面積(令和2年)

総面積: 191.12km² (19,112ha)



■土地利用面積の推移



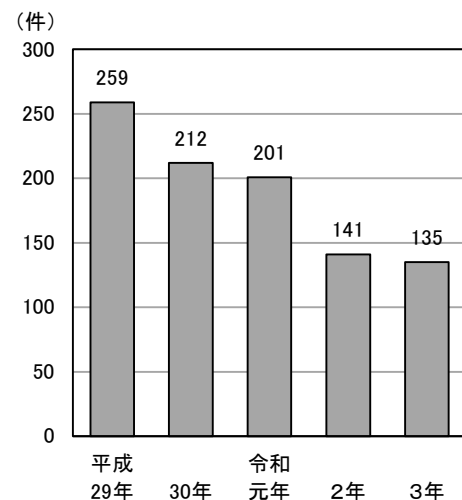
資料: 土地に関する統計年報

⑤ 地域防犯・交通安全

○刑法犯認知件数の推移をみると、近年は減少傾向にあります。犯罪種別の内訳では「窃盗犯」が最も多くなっており、令和3年の犯罪のうち 60.7%を占めています。

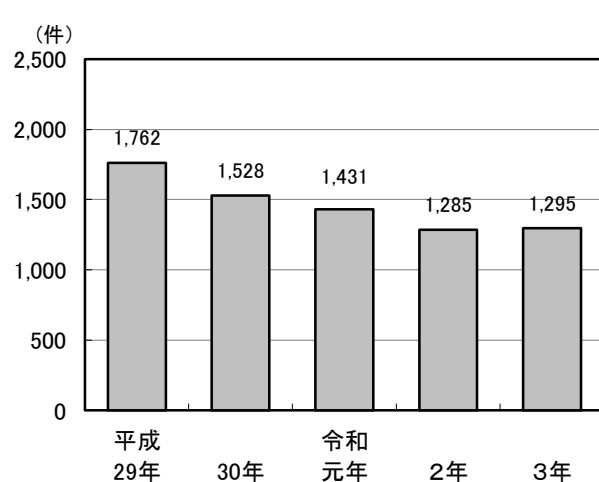
○交通事故件数の推移をみると、平成 29 年から減少傾向にありましたが、令和2年から令和3年にかけて微増しています。

■刑法犯認知件数の推移



資料: 田原警察署

■交通事故件数の推移



資料: 田原警察署

⑥ 環境共生まちづくり

- 本市は、令和3年1月に、豊富な日照時間や良好な風況を利用した再生可能エネルギーの有効活用や、省エネルギーの推進など、環境との調和を図ったこれまでの地球温暖化対策を継承しつつ、市民、事業者、行政が脱炭素社会の実現に向けた持続可能な地域づくりを進めることにより、2050年までに本市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「たはらゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しました。
- 市内の持ち家世帯の住宅用太陽光発電設備の導入率は、令和3年度末現在で約16%となっています。
- 臨海部には、木質バイオマス発電所の建設が進んでおり、令和7年には5事業稼働予定で、日本最大規模の集積地が誕生する見込みです。

■再生可能エネルギー導入状況

		発電電力量 (MW h/年)				
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
太陽光発電	10kW未満	10,359	10,943	11,479	12,204	12,747
	10kW以上	177,849	184,895	203,377	207,389	208,296
風力発電		128,719	128,719	128,908	128,952	128,952
水力発電		0	0	0	0	0
地熱発電		0	0	0	0	0
バイオマス発電		0	350	350	350	350
計 (①)		316,928	324,907	344,114	348,894	350,345
市内の電力消費量 (②)		1,177,802	1,302,570	1,195,743	1,112,661	1,112,661
FIT発電量比率 (①/②)		26.9%	24.9%	28.8%	31.4%	31.5%

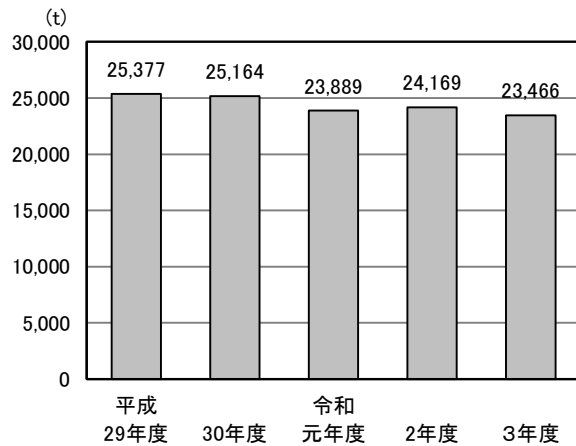
資料：自治体排出量カルテ(環境省)

⑦ 資源循環

○ごみの収集量は、概ね減少傾向にあります。

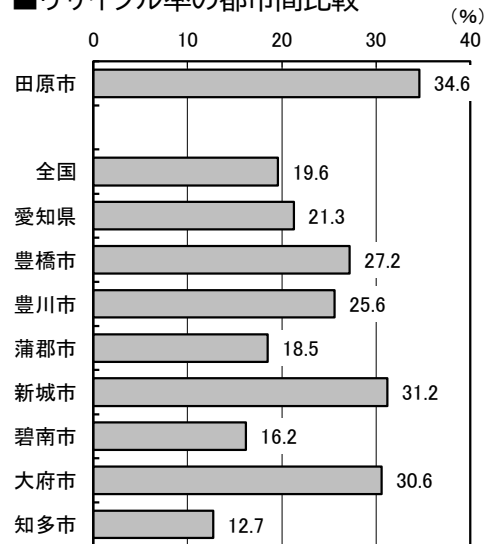
○総収集量のうち資源の占める割合であるごみのリサイクル率を都市間比較でみると、本市は他の市を大きく上回っています。

■ごみ処理の状況



資料:環境に関する報告書

■リサイクル率の都市間比較



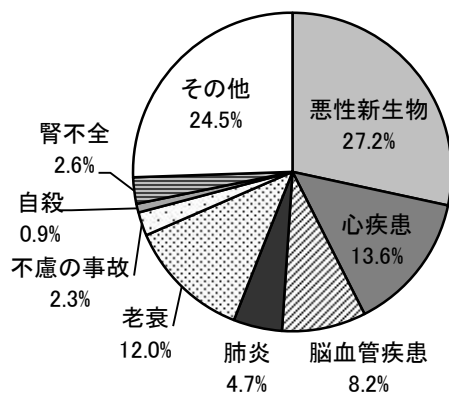
資料:統計でみる市区町村のすがた 2019(令和元年)

⑧ 健康づくり

○本市の主な死因は悪性新生物(27.2%)・心疾患(13.6%)・脳血管疾患(8.2%)のいわゆる生活習慣病が49.0%と約半数を占めています。

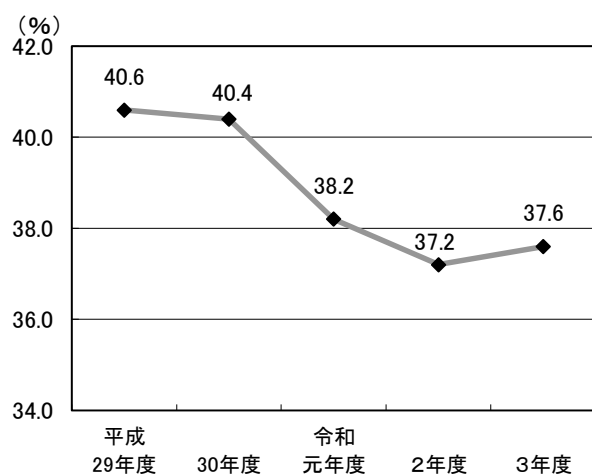
○平成 20 年度より開始されている、40 歳～74 歳を対象とした特定健康診査の受診率は平成 29 年度以降減少傾向にありましたが、令和3年度は前年度と比較して微増しています。

■死因別死亡者数(令和元年)



資料:愛知県衛生年報

■特定健康診査受診率の推移



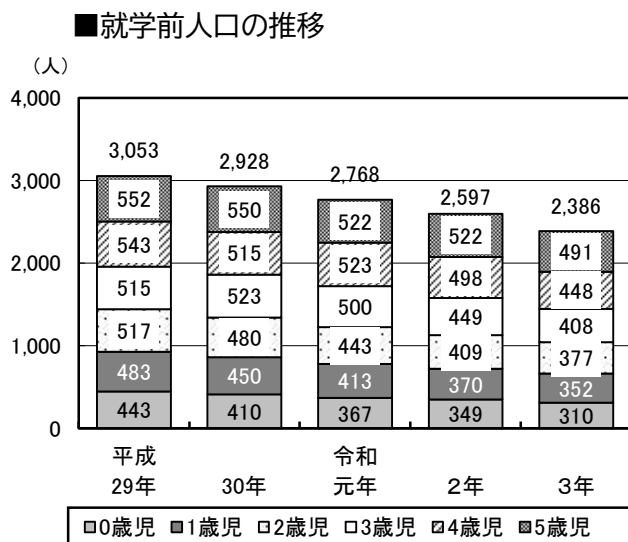
資料:健康課

⑨ 児童福祉

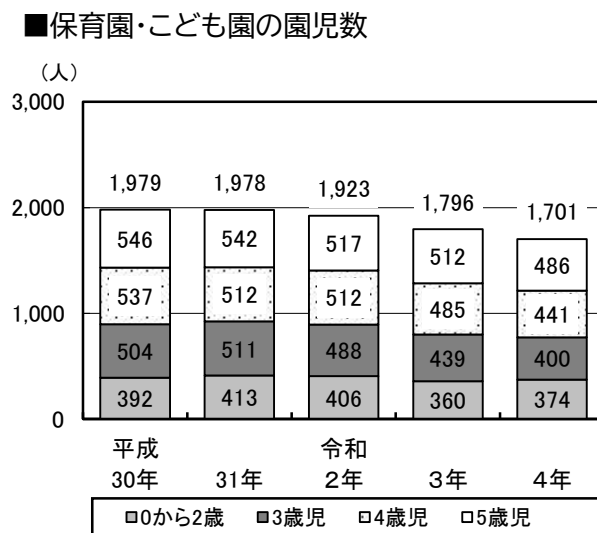
○本市には、保育所型認定こども園が14箇所、幼保連携型認定こども園が4箇所、認可保育所が1箇所あります。

○就学前人口の推移をみると、年々減少傾向にあり、令和3年度末には2,386人となっています。

○保育園・子ども園の園児数は近年減少傾向にあります。



資料:市民課(各年度末現在)

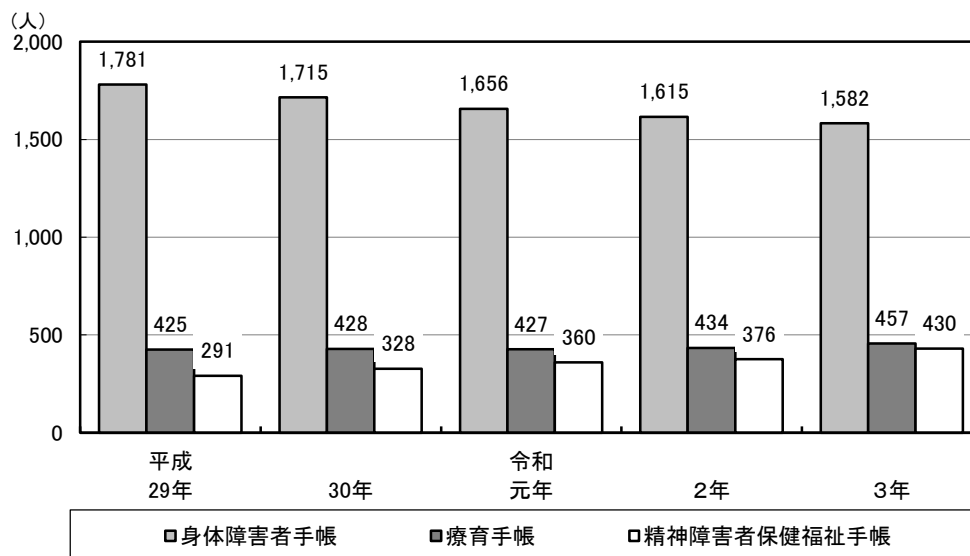


資料:子育て支援課(各年4月1日現在)

⑩ 障がい者福祉

○各障害者手帳の所持者数をみると、身体障害者手帳所持者は減少傾向にありますが、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加傾向にあります。

■各手帳所持者数の推移



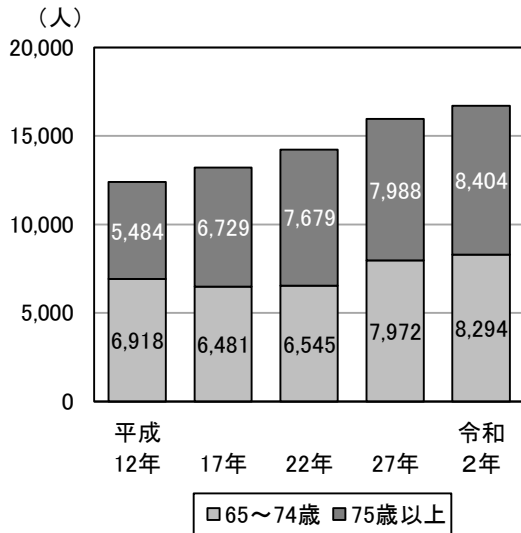
資料:地域福祉課(各年4月1日)

⑪ 高齢者福祉・介護保険

○65歳～74歳までの前期高齢者と、75歳以上の後期高齢者の推移をみると、年々増加しており、令和2年の高齢者の割合は前期高齢者が49.7%、後期高齢者が50.3%となっています。

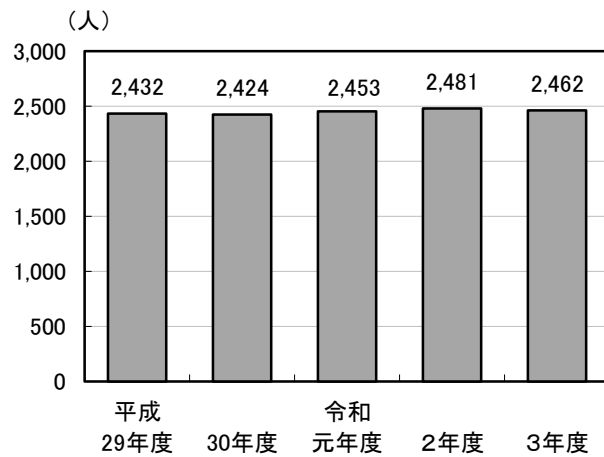
○介護が必要な要介護認定者数の推移をみると、2,400人台で推移しています。

■前期・後期高齢者数の推移



資料：国勢調査

■認定者数の推移



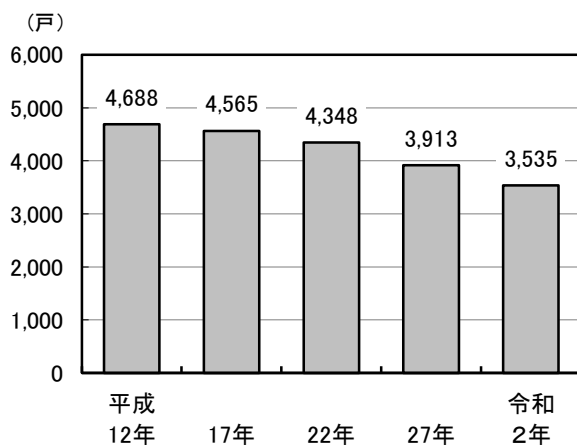
資料：介護保険事業状況報告(各年度末現在)

⑫ 農業

○農家数の推移をみると、年々減少しており、令和2年時点で3,535戸となっています。

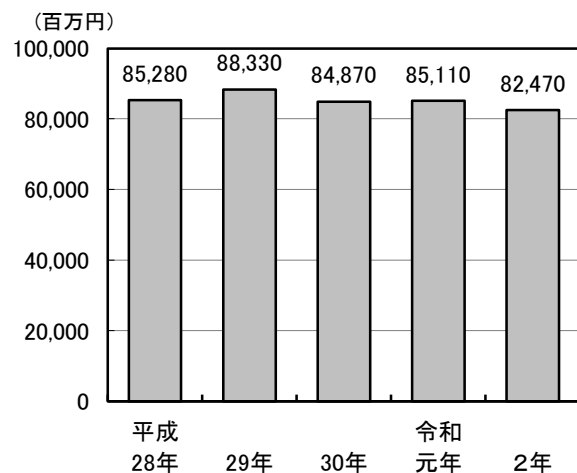
○農業産出額の推移をみると、平成29年で約883億円となっており、令和2年には豚熱の影響により、約824億円と約59億円の減少がみられますが、全国トップクラスの農業地帯となっています。

■農家数の推移



資料：農林業センサス(各年2月1日現在)

■農業産出額の推移

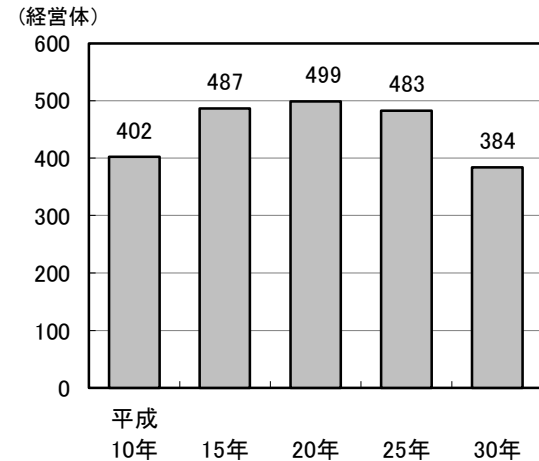


資料：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

⑬ 水産業

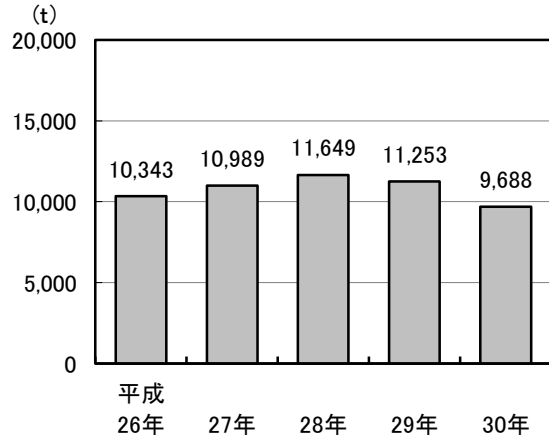
○漁業経営体数は平成20年をピークに減少しており、平成30年時点で384経営体となっています。
 ○平成30年の本市の漁獲量は9,688tとなっており、愛知県内で3位の漁獲量を誇っています。経年でみると、近年の漁獲量は減少傾向にあります。

■漁業経営体数の推移



資料:漁業センサス(各年11月1日現在)

■漁獲量の推移

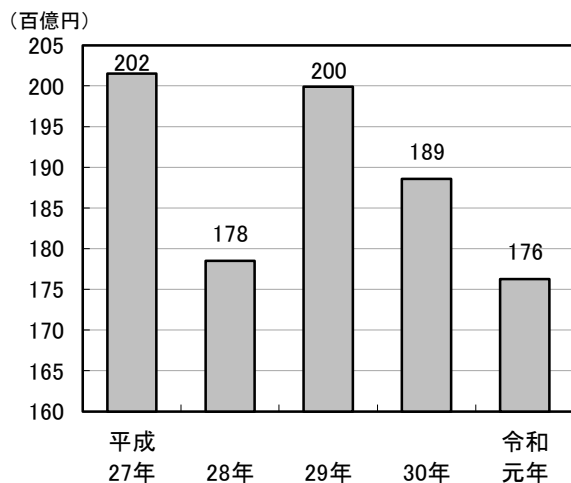


資料:愛知県農林水産統計年報・東海農林水産統計年報

⑭ 工業

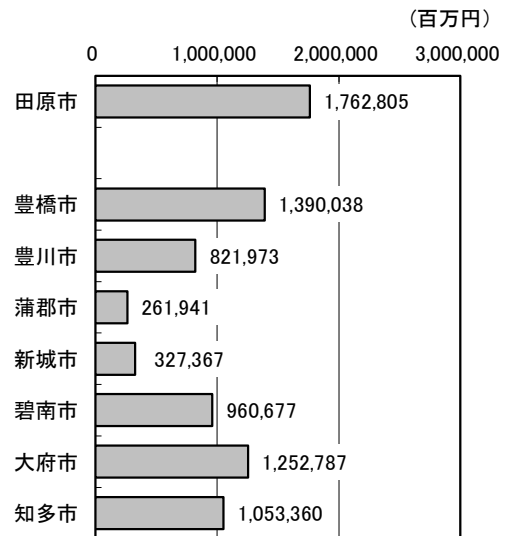
○事業所数・従業者数の推移をみると、事業所数は増減を繰り返しながら推移し、令和元年は67事業所となっています。従業者数は、増減を繰り返し推移し、令和元年では13,133人となっています。
 ○製造品出荷額等は近年減少傾向にありますが、他市に比べて高い状況です。

■製造品出荷額等の推移



資料:工業統計調査(各年12月31日現在)

■製造品出荷額等の都市間比較



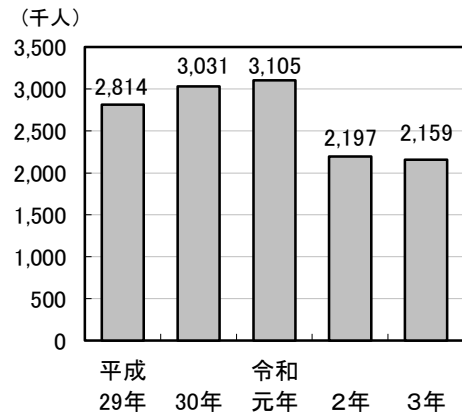
資料:統計でみる市区町村のすがた 2019(令和元年)

⑮ 観光

○観光入込客数の推移をみると、新型コロナウイルス感染症による行動制限により、令和2年以降は大幅に減少しています。

○主要な観光施設等において、特に観光入込客数が多い施設は「蔵王山展望台」や「めっくんはうす」・「あかばねロコステーション」などの道の駅、「サンテパークたはら」となっています。

■観光入込客数の推移



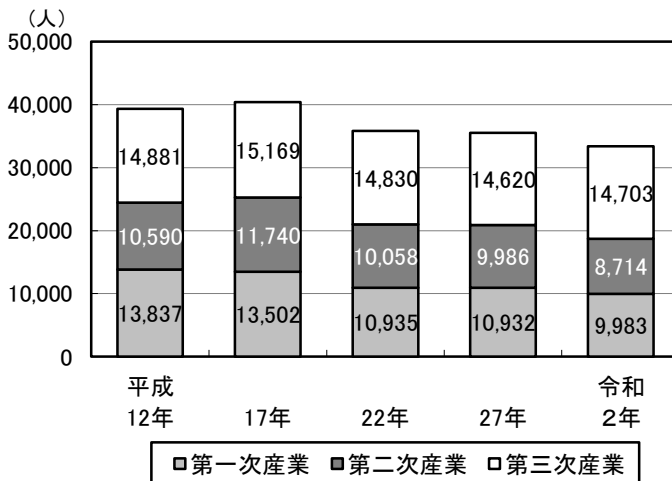
資料:商工観光課

⑯ 労働環境・消費生活

○令和2年国勢調査による本市の就業者数は 36,114 人(分類不能の産業を含む)となっており、うち第1次産業従事者は 9,983 人、第2次産業従事者は 8,714 人、第3次産業従事者は 14,703 人となっています。

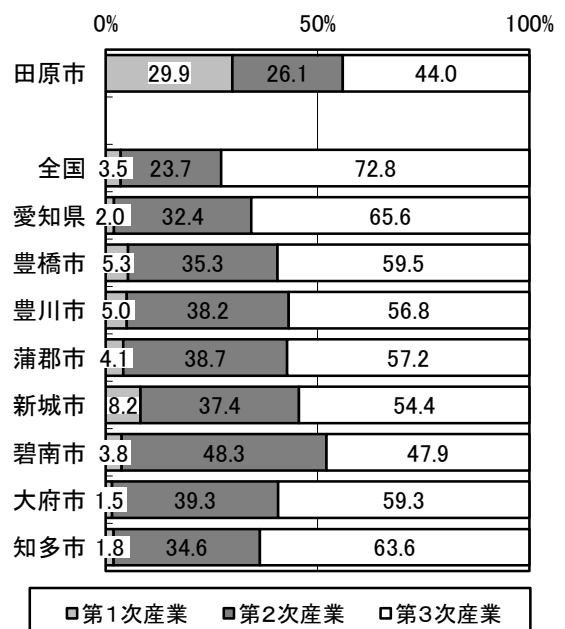
○割合としては第3次産業が最も多くなっていますが、全国や愛知県、近隣自治体等と比較すると第1次産業の割合が非常に高くなっていることがわかります。

■産業別就業者数の推移



資料:国勢調査

■産業別就業者数割合の都市間比較



資料:国勢調査(令和2年)

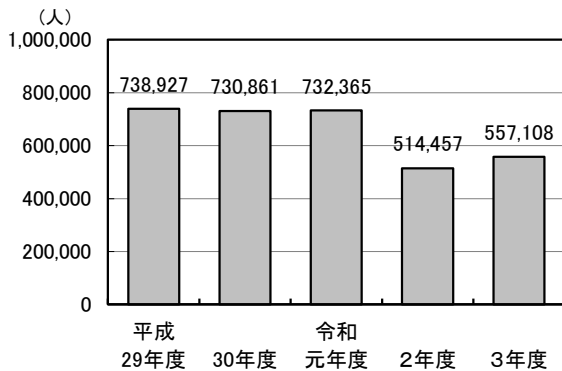
⑰ 公共交通

○市内には、豊橋鉄道渥美線の鉄道駅が4駅あり、年間利用者総数は新型コロナウイルス感染症による行動制限により、令和2年度は大きく減少しています。

○バス路線は、豊橋鉄道により運行されている伊良湖本線(豊橋駅～伊良湖岬、半島北部経由)及び伊良湖支線(渥美病院～保美、赤羽根経由)があるほか、市が運行するコミュニティバス(ぐるりんバス)があります。

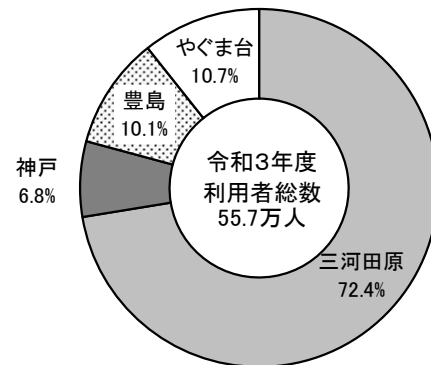
○伊良湖港からは、伊勢湾フェリー(鳥羽～伊良湖)と、名鉄海上観光船(河和～日間賀島～篠島～伊良湖)の高速船が運航されています。

■豊橋鉄道渥美線田原4駅の乗客数



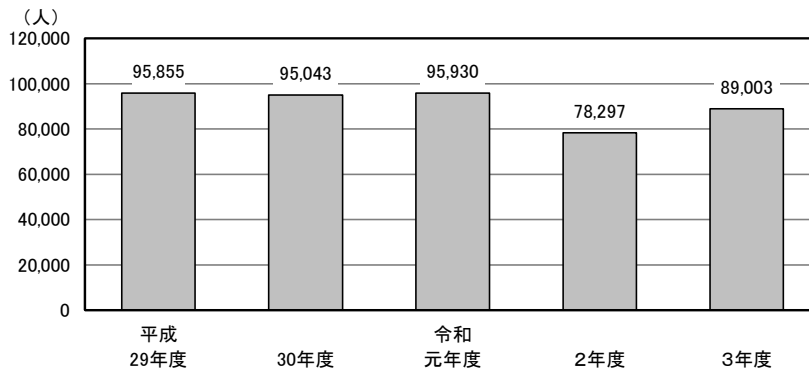
資料:街づくり推進課

■豊橋鉄道渥美線田原4駅の乗客数の割合



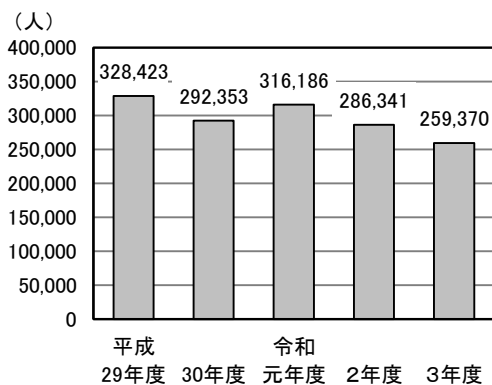
資料:街づくり推進課

■コミュニティバス利用者数の推移



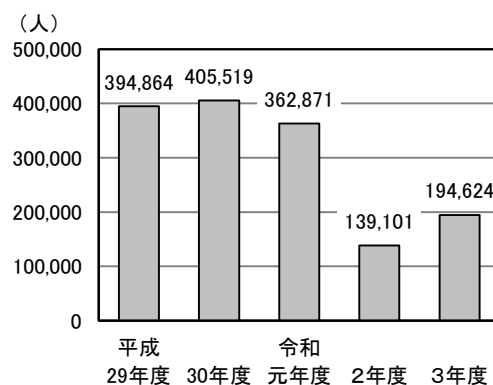
資料:街づくり推進課

■路線バス(伊良湖本線・支線)の利用者数の推移



資料:街づくり推進課

■フェリー・高速船の利用者数の推移



資料:街づくり推進課

⑱ 地域・住環境

○平成 29 年度に実施した空き家に関する現地調査やアンケート調査の結果では、市内の空き家と想定される数は、491 件となっています。

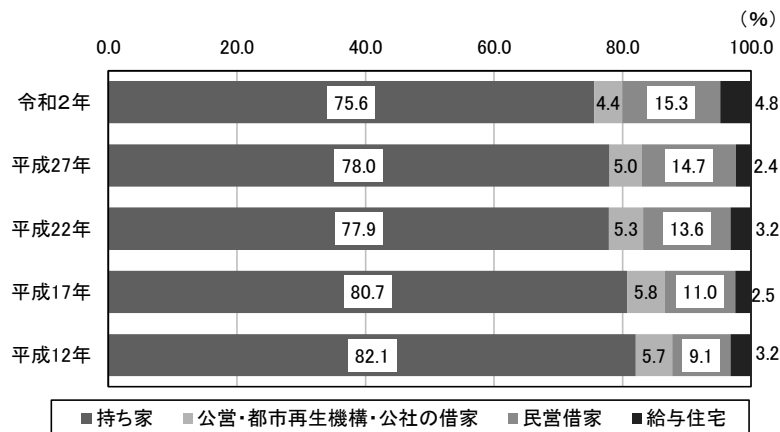
■管理状況別空き家候補数

	良好	軽微な問題あり	管理不全	状況確認不能	合計
田原市街化区域	44	37	6	0	87
赤羽根市街化区域	1	11	7	0	19
福江市街化区域	12	12	9	0	33
市街化調整区域	77	148	120	7	352
計	134	208	142	7	491

資料：平成 29 年度空き家調査

○令和2年時点の住宅数は 20,118 戸で、そのうち持ち家は 75.6%を占めています。経年でみると、持ち家の割合が低下し、民営借家の割合が高まっています。

■持ち家の状況



資料：国勢調査

⑲ 上下水道

○上水道の普及率は 99.9%で、老朽化した施設の更新や、耐震化の整備を進めています。

○令和3年度末現在で下水道普及率は 95.5%、水洗化率は 91.3%となっています。今後も未整備地区の整備促進と水洗化率の向上を図る必要があります。

■下水道普及率・水洗化率の状況

	計画処理人口 (人)	併用区域内人口 (人)	接続人口(人)	普及率(%)	水洗化率(%)
公共下水道	39,600	32,954	30,079	55.2	91.3
農業集落排水	35,518	23,798	21,709	39.8	91.2
コミュニティプラント	800	270	270	0.5	100.0
合計	75,918	57,022	52,058	95.5	91.3

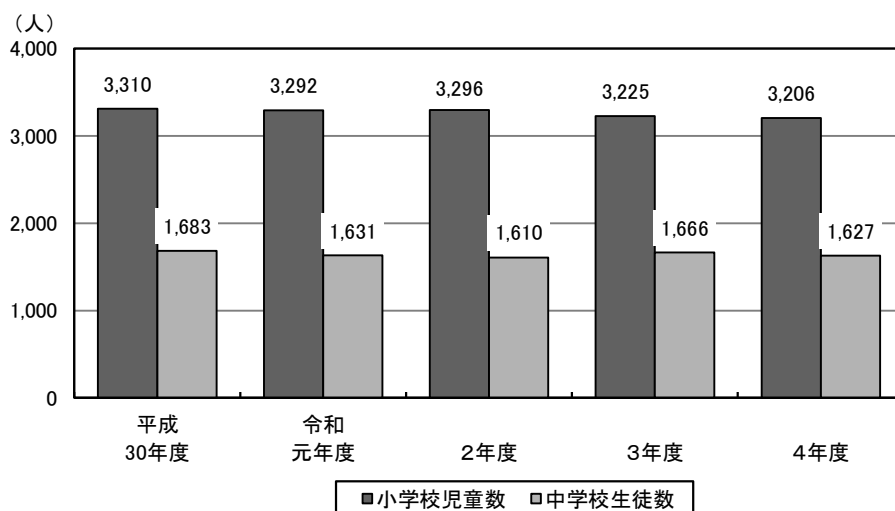
資料：下水道課(令和4年3月 31 日現在)

⑳ 学校教育

○田原市の小中学校数は、昭和 50 年代までは 26 校で推移していましたが、企業誘致等による人口増加により昭和 60 年4月に衣笠小学校が開校し1校増加しました。それ以降は、防災(津波)対策・少子化に伴う再編により小学校 18 校、中学校4校の合計 22 校となっています。

○児童生徒数は、小学校、中学校ともに減少しており、令和4年度では小学校児童で 3,206 人、中学校生徒で 1,627 人となっています。

■児童生徒数の推移

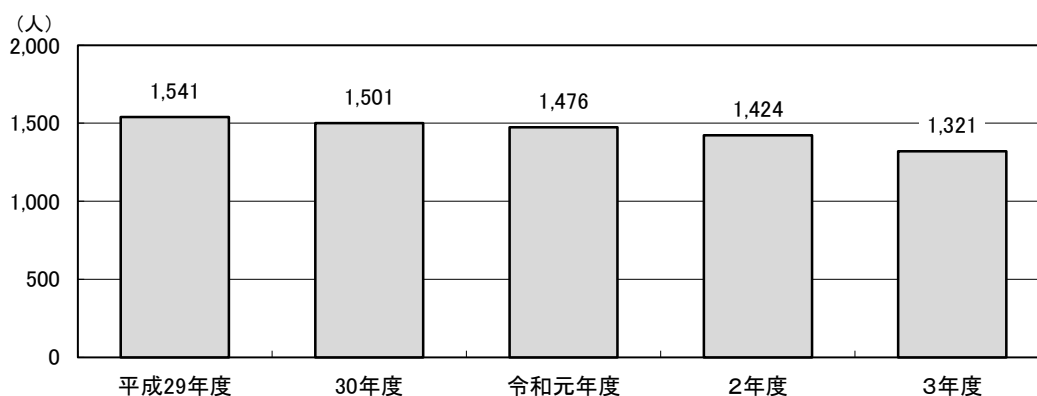


資料:学校基本調査(各年5月1日現在)

○市内には普通科・総合ビジネス科・生活文化科を持つ成章高等学校、農業科・施設園芸科・食品科学科・生活科学科を持つ渥美農業高等学校、普通科を持つ福江高等学校の3つの県立高等学校があります。

○高等学校の生徒数は近年減少傾向にあります。

■高等学校の生徒数の推移



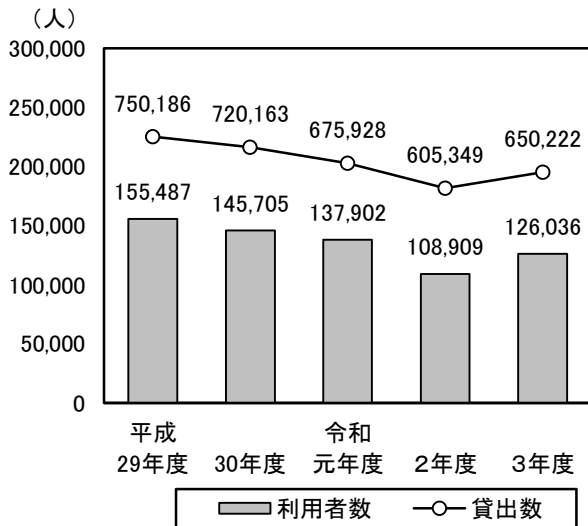
資料:愛知県学校基本調査(各年5月1日現在)

② 生涯学習

○図書館の利用者数は、利用者数、貸出冊数ともに、令和2年度までは年々減少しています。

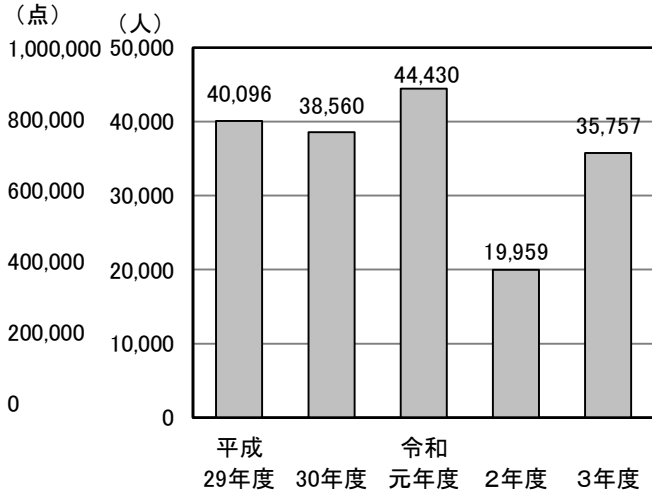
○博物館の入館者数は、令和元年度は44,430人となっていますが、令和3年度は35,757人と減少しています。

■図書館利用者数と貸出数の推移



資料:図書館

■博物館入館者数の推移



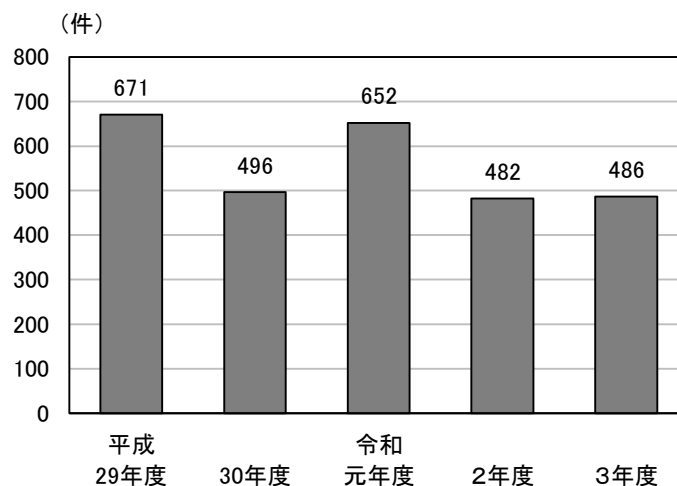
資料:文化財課

② 青少年健全育成

○本市では、青少年の健全育成に関する取組として、青少年健全育成協議会、子ども・若者支援地域協議会等を開催しています。

○子ども・若者総合相談窓口の相談件数は、令和3年度では486件となっています。

■子ども・若者総合相談窓口の相談件数



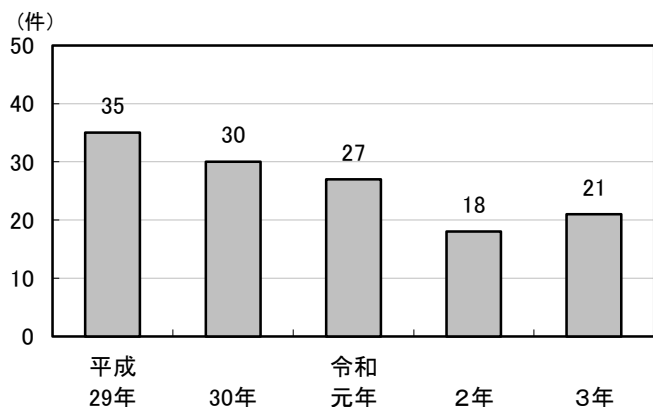
資料:生涯学習課

② 消防・救急体制

○火災発生件数は、平成 29 年と比較すると近年減少傾向にあります。

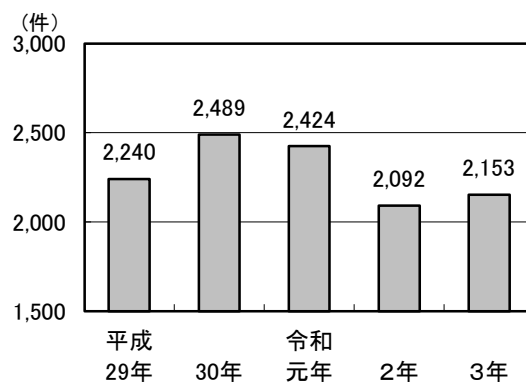
○救急出動件数は、近年、各年度 2,000 件～2,500 件の間で推移しています。令和3年の内訳は「急病」によるものが全体の 67.0%を占めています。

■火災発生件数の推移



資料: 予防課

■救急出動件数



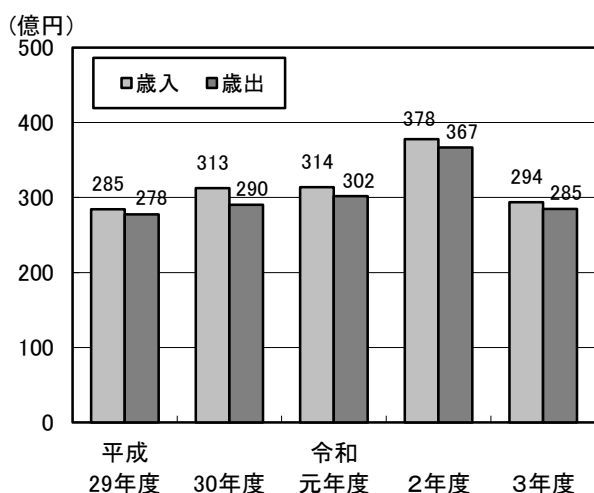
資料: 消防課

④ 行財政運営

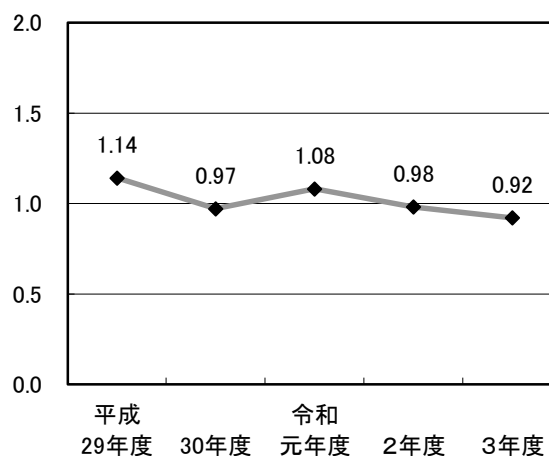
○令和3年度の歳入総額は 294 億円、歳出総額は 285 億円となっており、ともに 300 億円を下回っています。歳入、歳出ともに令和2年度まで増加傾向にありましたが、令和3年度は前年度と比較して減少しています。

○財政力指数は、1を超えるほど財政力が強く、財源に余裕があるとされています。本市の財政力指数の状況をみると、令和元年度には 1.08 と1を超える指数となっていますが、令和2年度以降は低下傾向にあります。

■歳入・歳出の状況



■財政力指数の状況



資料: 決算統計、財政課

【その他】 田原市に関する参考資料

・その他、田原市に関する参考資料は、田原市ホームページに掲載してありますので、ご参照ください。

○総合計画

・「田原市HPトップページ」⇒「市の政策」⇒「総合計画」

○市民意識調査

・「田原市HPトップページ」⇒「市の政策」⇒「総合計画」⇒「田原市市民意識調査」

○事務事業評価シート

・「田原市HPトップページ」⇒「市の政策」⇒「行政評価」⇒「事務事業評価シート」

○統計情報

・「田原市HPトップページ」⇒「市の政策」⇒「統計情報」